

探鳥会スタッフ通信

2019年
5月号



「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目次

◆探鳥会訪問記・・・・・・・・・・・・・1	・2019 年度改訂版「ツバメのねぐらマップ」 を発行しました
・特集・初心者向けバードウォッチング (埼玉、神奈川支部、東京、三重、福井県)	◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・・13
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・・・・10 (2019年3月分)	◆探鳥会スタッフ通信の無料配信について・
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・・・・・12	◆編集後記・・・・・・・・・・・・・14

◆探鳥会訪問記

■特集・初心者向けバードウォッチング■

今月号では、以下の5回の「初心者向けバードウォッチング」(表1)について紹介します。

表1.

実施日		支部	実施場所	
2019年2月23日	(土)	埼玉	さいたま市 岩槻区	岩槻文化公園
		神奈川支部	横浜市 港北区	新横浜公園
2019年3月2日	(土)	東京	千代田区	日比谷公園
2019年3月16日	(土)	三重	度会町	宮リバー度会パーク
2019年3月24日	(日)	福井県	敦賀市	気比の松原

岩槻文化公園 初心者向けバードウォッチング（埼玉）

【日程】2019年2月23日（土）9時10分～13時30分

【場所】岩槻文化公園（埼玉県さいたま市）

【天候】曇りのち晴れ

【参加者】8名（うち一般参加者5名）

【リーダー】4名、財団職員2名

【広報】

<インターネット>支部HP、財団HP/Facebook/twitter

<メール>一斉メール送信（1月初旬、全国約60,000名に送信）

<チラシ>探鳥会のご案内（12月初旬から全国約65,000名に送付）

■探鳥会概要

この探鳥会は、“親子限定”探鳥会として開催されました。

岩槻文化公園は、さいたま市岩槻区の元荒川に沿って広がる公園です。駅から少し距離がありますが、駐車場が広いので車でも気軽に来る事ができます。川沿いに木立が並び中に、散策の森、つどいの広場、多目的広場などがあり、坂道が無く、地面も平らなのでゆっくりと散歩ができます。また、ここは公衆トイレも多く、公園内体育館に管理事務員がいるので緊急時横になれる場所もあります。そのため、親子の方も安心して遊びに来られる公園、といえそうです。

■受付の様子

埼玉は、「初心者向けバードウォッチング」と「定例探鳥会」を同時におこなうため、集合場所には大勢の定例探鳥会参加者が集まっていました。今回の「初心者向けバードウォッチング」は子ども連れのご家族が対象なので、参加者の見分けはスムーズにできました。ですが、「初心者向けバードウォッチング」参加者から見た場合、自分がどこに集合するべきか、すこし分かりにくい状況です。なので、こちらから積極的にお声掛けし、間違いのないように注意しました。

■探鳥会の様子

強風が懸念されていましたが、開始時には風の問題なく気温も暖かでした。まずは30分ほど使い、スタッフの紹介と探鳥会の概要やトイレなどの案内、双眼鏡の使い方をレクチャーしました。その後、出発前にトイレ休憩を挟みました。小さな子どもがいるので、短時間でもこまめに休憩をとります。

双眼鏡は参加者全員に貸し出しました。熱心に双眼鏡を覗き込む子どもたちの姿が見られ

ました。中にはなかなか思うように使えない子どももいましたが、探鳥会の前半で全ての方が鳥を観察できるようになりました。最初に見えなかった時間があった分、見えるようになった後はより熱心に観察を楽しんでいるようでした。

コースは、スポーツグラウンドと公園を抜け、川沿いを歩いてから、途中で折り返して同じ道に戻る、というもの。約2時間かけてじっくり楽しみました。歩きながらもたくさんの小鳥が人の近くまで姿を見せてくれたので、裸眼でも見て楽しめ、すぐ間近でさえずりを聴くこともできました。空ではカラスが枝を運ぶ姿や、オオタカをモビングする場面に遭遇し、大人も子どももわくわくするような出来事があり、参加者もスタッフも満足気でした。

川沿いでは、ダムで塞き止められ水位が落ちたことで現れた道沿いを歩きました。夏になるとまた水位が上昇し、人が立ち入れなくなります。足元には水中の植物が干上がった状態で残っており、野鳥以外の見どころもありました。

望遠鏡は3台あり、内2台の三脚を子どもの目線に合わせて使いました。親子で一緒に見ることができスマスコも活躍しました。

観察が終了すると、参加者の皆でお昼ご飯の



▲本物の羽を使ってカモの解説

時間です。お腹がいっぱいになり、大人も子どももリラックスしたところで、座ったまま鳥合わせや、日本野鳥の会の紹介をしました。

■まとめ

参加した子どもたちは最後まで夢中になって楽しみ、さらにその親御さんも楽しんでいる様子でした。親子で楽しめたのは良かったと思います。大人とは違った目線や感性をもった幼いうちに、野鳥や自然に触れられる貴重な機会となりました。

■参加者の声

参加者のお母さま：

「通りがかった場所でたまたま居合わせたチュウヒのねぐら入りとそれを観察しに集まった人々との交流をきっかけに探鳥会への関心が高まりました。

探鳥会に参加すると、リーダーの皆さんが詳しいことを教えてくれるのでずっと行ってみたいと思っていました。初めての参加だが、今回鳥の話がたくさん聞けてとてもよかった。これからはさらにいろいろな場所に行ってみたいです。」とおっしゃり、その場で本入会をしていただきました。

(普及室/森谷机珠瑠)

(カード式名簿記入者のアンケート結果)

【性別】	【年齢構成】	【認知経緯】	【一般・会員】	【BW経験】	【居住区】
男性3名 女性2名	9歳以下2名 10代0名 20代0名 30代0名 40代3名 50代0名 60代0名 70歳以上0名	支部HP3名	一般5名 会員0名	今回初めて2名 2~4回3名 5~9回0名 10回以上0名	さいたま市3名 上尾市2名

春めく日差しの中でブラ鳥見 新横浜公園探鳥会(神奈川)

【日程】2019年2月23日(土)9時00分~11時30分

【場所】新横浜公園(横浜市港北区)

【天候】晴れ

【参加者】48名(うち一般参加者36名)

【リーダー】11名、財団職員3名

【広報】

<インターネット>財団HP/facebook/twitter

<メール>一斉メール送信(1月初旬、全国約60,000名に送信)

<チラシ>探鳥会のご案内(12月初旬から全国約65,000名に送付)

■概要

「新横浜公園」は、JR小机駅から徒歩10分ほどに位置する、横浜市営の運動公園です。敷地内には野球場やサッカー場、テニスコートなどが整備され、スポーツを楽しむ市民でにぎわう施設です。

また、隣接する鶴見川とつながる大きな池があり、冬には多くのカモ類が観察できる、バードウォッチングスポットでもあります。この場所で定例探鳥会は開催されておらず、今回は初心者向け探鳥会として企画されました。

参加者は事前申込制で募集され、27組48名が参加しました。

■探鳥会の様子

JR小机駅内に集合し、受付、双眼鏡の貸し出しの後、リーダーから注意事項の説明、簡単なお試し入会制度の説明などがありました。リーダー2名に7・8名ほどの班が編成され、公園まで移動しました。

途中、双眼鏡の使い方を丁寧に説明し、サッカー場のフェンスにとまるコサギ、芝生の上を

歩くツグミ、街路樹の上のカワラヒワなどを見つつけ、観察しました。鳥が見つかるたびに、リーダーが案内し、解説をしていると、皆さん興味深そうに観察していました。

池に着くと、二十羽ほどのオオバンの群れが見られました。すると、ある参加者の女性が「わたし、オオバンが大好きなんです。こんなにみられてうれしい！」

とやや興奮気味に話してくださいました。すると、隣にいた女性も

「私も好きです。模様が独特ですよ。」などと会話が弾んでいました。鳥が好き、という共通点があるため、参加者同士で自然と会話が生まれていました。

その後、マガモやオカヨシガモ、ミコアイサなど特徴的なカモがたくさん登場したので、そのユニークな姿かたちを、お互いの感想を口にしなが楽しんでいました。

まとめでは、鳥あわせをし、あらためて会の紹介やお試し入会のよびかけがありました。

「入会することは自然を守ることにもつながります。」

と、会の活動や入会の意義などを丁寧に伝えている様子が印象的でした。終了後5名の方がお越し入会をされました。

■参加者の声

40代男性：子どもが鳥好きなので、親子で参加できるイベントはないかとインターネットで探して見つけました。

20代女性：最近、青い鳥会員になりました。全くの初心者で、鳥のことを知りたくて参加しました。一人で見てもわからないことが多いので、今日は教えてもらえてよかったです。

20代女性：野生動物のリハビリーターのボランティアをしており、傷病鳥を世話する機会があります。よりよいケアのため、野鳥の生態を知ることが必要と考え、参加しました。

■まとめ

快晴の空のもと、終始なごやかな雰囲気探鳥会でした。広々として気持ちよく歩けるコース、だれでも鳥がよくみられる環境、リーダーの皆さんの丁寧な対応と、初めての方でも気持ちよく過ごせる要素がそろっていました。それに加え、参加者の方には、バードウォッチングに関心の高い方が多く、リーダーとの会話ははずんでいました。

終了後のリーダーの方々からの意見としては、「初心者向け探鳥会は毎回人気が高く、事前申込制にしてもすぐに定員に達することが多い。お越し入会を参加の条件として参加者を集めても、希望者は多いはず。お越し入会付き探鳥会を開催し、何度も探鳥会に足を運んでもらえるようにしてはどうか」という意見も上がっていました。

お越し入会を前提とした探鳥会は、2018年度から、東京や神奈川支部の一部の初心者向け探鳥会で取り入れられています。探鳥会の参加希望者が多い都市部では、入会促進への有効な手段になるのか、今後の展開に注目したいと思います。



▲子ども、若者、シニア層と幅広い年齢層が参加されていました

(普及室／江面康子)

(カード式名簿記入者のアンケート結果)

【性別】	【年齢構成】	【認知経緯】	【一般・会員】	【BW経験】	【居住区】
男性17名 女性25名 不明3名	9歳以下3名 10代4名 20代1名 30代3名 40代11名 50代15名 60代6名 70歳以上1名 未記入1名	探鳥会のご案内16名 メール6名 支部HP7名 財団HP9名 家族・友人の紹介3名 Facebook1名 その他2名	一般40名 会員5名	今回初めて21名 2~4回15名 5~9回7名 10回以上0名 未記入2名	横浜市 33名 海老名市 2名 川崎市 2名 大和市 2名 横須賀市 1名 東京都 4名 埼玉県 1名

お試し入会付き 日比谷公園とお濠でバードウォッチング（東京）

【日時】2019年3月2日（土）10時00分～12時00分

【場所】日比谷公園（東京都千代田区）

【天候】晴れ

【参加者】62名（うち一般参加者61名）

【リーダー】11名、財団職員3名

【広報】

<インターネット>財団HP/Facebook/twitter

<メール>一斉メール送信（1月初旬、全国約60,000名に送信）

<チラシ>探鳥会のご案内（12月初旬から全国約65,000名に送付）

■探鳥会の概要

この探鳥会は「お試し入会付き」となっており、1組につき代表者1名が日本野鳥の会東京にお試し入会していただく仕組みとなっています。

参加費は、人数分の参加費（18歳以上）200円と、お試し入会の費用1,000円です。

■探鳥会前の様子

リーダーは開始1時間前には集合し、担当リーダーを中心に打ち合わせが行われていました。受付時の役割、探鳥会中のポジション、鳥合わせ中の役割が細かく振られており、それを一覧にまとめた紙が配布されていました。

また、受付場所の周辺では、「受付はこちら」と案内するリーダーが複数立ち、園内のどの方向から来ても誘導できる体制でした。参加者は、受付→参加費の支払い→お試し入会の支払い→領収書の受け取り→配布物の受け取り→待機場所へと、スムーズに案内されていました。参加人数も多く、受付時の手順も多いのですが、様々な工夫により混乱なく受付が行われていることに驚きました。

受付後から探鳥会開始までの15～20分ほどの間は、待機場所で担当リーダーが野鳥観察に関することをお話されていました。開始までの時間も飽きることなく、探鳥会までの時間を過ごすことができました。話す内容はファイルを使って紙芝居調になっており、とてもわかりやすく、参加者も聞きながら熱心に聞いていました。

■探鳥会の様子

観察は3班に分かれ、2つは大人、1つは親子の班になっていました。対象を分けることでそれぞれに合わせた案内がされていました。親子のグループでは、子どもを引きつけるために問いかけを多くしたり、身振り手振りも大きく

話をしていたので、観察前からとても良い雰囲気でした。全体としても、多くの野鳥を見る、珍しい野鳥を見るというよりは、身近な野鳥でもじっくりと観察を楽しんでもらえるよう、リーダーが丁寧に観察ポイントを説明されていたのが印象的です。

参加者からは、

「あんな動きするんだ。」

「羽の色がきれい！」

と声があがり、皆さん熱心に望遠鏡を覗いていました。参加人数は多かったのですが、リーダーそれぞれが細やかに解説・対応されていたので、どの参加者にも目が行き届いており、質問しながらゆったりと観察することができました。

観察の後の鳥合わせでは、見られた野鳥の確認と、都内で開催されている主な探鳥会をご案内し、双眼鏡や販売物の図鑑などのご案内もありました。終わったあとには、

「明治神宮に行ってみよう。」

と探鳥会の様子を聞く参加者や、

「どんな双眼鏡を買えばいい？」

と相談されている方が多かったです。お試し入会付きで参加されているということもあり、今後も観察してみたいという意欲が高いように感じました。



▲観察の様子

■探鳥会後の反省会

事前の準備や役割分担がしっかりと整っており、受付時から最後のまとめのお話まで、完璧に進行されていました。全体を通して進行や誘導がスムーズなので、参加者も過ごしやすい時間だったのではないかと感じました。反省会では、お試し入会で終わらずに正入会していただくには、定例の探鳥会にも参加していただき、今後に繋げることが大切ということが話され

ました。そのため、鳥合わせ後は各地の探鳥会を丁寧に説明したり、メーリングリストで情報をご案内されるとのことでした。東京は、今回の探鳥会で2018年度の全5回の初心者向け探鳥会は終了。次年度も継続して開催しながら、継続して会員になれる方を増やしていきたいと話されていました。

(普及室／嶋村早樹)

宮リバー公園探鳥会（三重）

【日程】2019年3月16日（土）8時30分～11時45分

【場所】宮（みや）リバー度会（わたらい）パーク（三重県度会町）

【天候】曇り時々晴れ

【参加者】25名（うち一般参加者15名。会員10名のうち6名はサブリーダー）

【リーダー】2名、財団職員1名

【広報】

<インターネット>支部HP/Facebook/twitter、財団HP/Facebook/twitter

<メール>一斉メール送信（1月初旬、全国約60,000名に送信）

<チラシ>探鳥会のご案内（12月初旬から全国約65,000名に送付）

■探鳥会概要

今回の会場「宮リバー度会パーク」は、伊勢市街から車で約25分、清流宮川沿いにひろがる公園です。スポーツ施設・遊具やバザールが充実し、お花見スポットとしても有名で、年間を通して多くの市民が利用します。園路は広く平坦で、疎林や見通しの良い芝生の広場は初心者小鳥の観察を行うのに恰好の環境です。すぐそばを流れる宮川水面までの距離も近く、水鳥の観察にも適しています。

この時期は200mにおよぶ河津桜並木の見頃で、花見の混雑を避けるために集合時間を8時30分と早めに設定しました。

前半は疎林帯を抜ける園路で小鳥を、折り返して後半は川沿いの園路で水鳥を観察しながら、約1.4kmを2時間半かけてゆっくりと歩く探鳥会です。

■前回の気づきを工夫にかえて

日本野鳥の会三重は、2018年12月に初めて初心者向けバードウォッチングを開催しましたが、想定外に多数の参加者があり、スムーズな運営ができなかったと感じておられました。スタッフ不足や、スタッフ間の情報共有が難しかったこと、受付やまとめ時の案内がスムーズにできなかったことなどの課題と共に、考えていた以上に初心者向け探鳥会へのニーズ

が高いという気づきを得て、2回目となる今回は、スタッフ数の確保やマイク・受付セットの用意など様々な工夫を取り入れて準備されていました。特にユニークな工夫点を次にご紹介します。

- ・登山アプリを利用してGPSルートマップを作成し、事前にスタッフ間でコースや注意点を共有。
- ・入会案内・パンフレット類などをまとめて入れた封筒を事前に数十部作成し、受付時の配布をスムーズに。
- ・ミニ図鑑を兼ねたオリジナルの写真入り野鳥ビンゴを作成し、野鳥観察のポイントも記述。段ボールで作ったA5サイズの簡易クリップボードを使うことで記入や資料の取り扱いが格段に楽に！

■探鳥会の様子

薄曇りの肌寒い朝です。スタッフは集合場所に受付を設置し、打合せをしながら参加者を待ちます。周到的な準備が功を奏して、次々と参加者がやってきても受付はとてもスムーズでした。

定刻になり、メインリーダーの挨拶から探鳥会が始まりました。グループを3つに分け、危険箇所やトイレの位置を交えてコース説明を行います。ここでの

「ゆっくり歩くので、ぜひ他の皆さんとペースを合わせて歩いてくださいね。」

とのリーダーからの声掛けは、参加者に集団行動であることをさり気なく意識づける上手な言い回しだな、と感じました。

ムクドリやヒヨドリ、ツグミなど似通った大きさの鳥たちを開けた広場で同時に観察でき、体形や姿勢、動き方の違いをリーダーが丁寧に解説します。鳥と木の実の関係や、この公園の環境を好む鳥・好まない鳥など、参加者は熱心に聞き入っていました。後半の川辺では、カモ類やカイツブリを、スコップを使ってじっくりと観察できました。オシドリの色鮮やかな姿には、参加者から歓声が上がりました。



▲野鳥ビンゴでまとめ



▲イラストを使って説明

ベンチのあるあずまやで、野鳥ビンゴを使ってまとめをします。参加者に順番に見た鳥をあげてもらふ方法は、自分の見た鳥をしっかりと参加者の心に印象付けるようです。

「ムクドリとヒヨドリは覚えたよ。」

「はじめてオシドリを見ました！」

と参加者から笑顔がこぼれました。受付時に渡した封筒の中の資料の説明、入会・バードメイトの案内をして探鳥会を終了しました。

■まとめ

今回は財団発信の広報による集客がどのくらいになるか予想できず、地元の新聞や自治体への広報ができなかったそうですが、次回は申し込み制にして積極的に地元へも広報し、余裕をもった運営をしたい、と早速次の企画に向けて意欲を見せてくださいました。初心者向け探鳥会の開催の経験を重ねて、遠方からの参加者よりも地元の人に参加してもらいたいという、明確なターゲットもイメージできたとのこと。探鳥会終了後のスタッフミーティングでは次々と新しい気づきや、次に向けてのアイデアが飛び出していました。

とても丁寧な運営で、参加者の満足度もとても高かったように感じる今回の探鳥会。それに甘んじることなく、この高い満足度を「また探鳥会に参加したい」という次につながる気持ちに一段引き上げようとする、三重の今後の取り組みがとても楽しみです。

(普及室/浅野綾子)

(カード式名簿記入者のアンケート結果)

【性別】	【年齢構成】	【認知経緯】	【一般・会員】	【BW経験】	【居住区】
男性 10名 女性 5名	9歳以下 2名 10代 0名 20代 1名 30代 0名 40代 1名 50代 5名 60代 3名 70歳以上 3名	家族・友人の紹介 6名 探鳥会のご案内 5名 財団 HP 4名 支部 HP 1名 ※複数回答あり	一般 15名 会員 0名	今回初めて 11名 2~4回 4名 5~9回 0名 10回以上 0名 未記入 0名	度会郡 6名 伊勢市 5名 志摩市 2名 松阪市 1名 桑名市 1名

気比の松原 ヤング探鳥会（福井県）

【日程】2019年3月24日（日）8時30分～11時30分（交流会は、14時まで）

【場所】松原公園（福井県敦賀市）

【天候】曇りのち晴れ

【参加者】21名（うち一般参加者17名）

【リーダー】9名、財団職員1名

【広報】

<インターネット>支部HP、財団HP/Facebook/twitter

<メール>一斉メール送信（1月初旬、全国約60,000名に送信）、

支部リーダーからの口コミメール

<チラシ>探鳥会のご案内（12月初旬から全国約65,000名に送付）、

支部作成のチラシ（福井県里山里海湖研究所、美浜市の施設などに設置）

<その他>タウン誌

■探鳥会の概要

日本野鳥の会福井県初のヤング探鳥会です。開催のきっかけは、2017年11月、福井県初の女子探鳥会にて、「日本野鳥の会滋賀のヤング探鳥会に参加した」という若手女性リーダーの発言を中心に「福井県でもヤング探鳥会を開催してはどうか？」と話が持ち上がったことです。2018年3月には、会場の下見を兼ねた「プレヤング探鳥会」が開催され、この度、晴れて本開催となりました。滋賀からもヤング探鳥会の担当者2名が応援にかけつけていました。

会場の気比の松原は、敦賀湾の奥に広がる国の名勝地で、松林は、市民の散策路やジョギングコースとして親しまれています。海の鳥、川の鳥、林の鳥が観察できる場所として、開催場所選ばれました。

名称は「ヤング探鳥会」ですが、福井県の若手メンバーが企画する探鳥会として、年齢不問で企画されています。事前申し込み制で23名の申し込みがあり、当日は若い方を中心に21名が参加。海で観察してから松林を観察する初心者チームと、その逆コースで観察をする経験者チームに分かれました。

■探鳥会の様子

スタッフの集合時間には強い雨が降っており、開催が心配されましたが、参加者が集合するころには雨もすっかり上がりました。リーダー間で役割分担が事前にしっかりとされており、受付では、それぞれがさっと持ち場に付き、対応されているのが印象的でした。

8時30分になると主担当の若手リーダー2名から、挨拶と鳥のビンゴゲームの説明がありました。続いて全員で写真撮影をし、初心者と

経験者のグループに分かれて観察がスタートしました。

初心者グループは、参加者9名、リーダー6名のグループでした。リーダーの中には、コースを先に進み、鳥を見つけておく「先発係」の役があり、参加者が浜辺に着くと先発係のリーダーが望遠鏡を設置して出迎えていました。

「カムリカイツブリの頭のオレンジ色、見えましたか？ぜひ見てください。」

など、リーダーは、初めて参加した参加者に観察のポイントをさりげなくお話しされます。また、カモメの識別の説明では、カモメの仲間をイラストで描いた自前のスケッチブックを用いて、分かりやすく伝えていました。

海と川での観察を終え、トイレ休憩を挟み、10時頃に松林での観察に移りました。皆で耳を澄ませ、カワラヒワやエナガを見ながら、進みました。

主担当のリーダーの一人は、植物にも詳しく、途中、

「この松は何か不思議なところはありませんか？」

との問いかけが。よく見ると、マツグミというヤドリギの仲間が寄生していました。参加者の中にも樹木に詳しい方がおり、その後もいろいろな植物を囲みながら、話に花が咲いていました。

11時過ぎに、観察を終え、集合場所の駐車場に戻りました。2グループまとめて鳥合わせをし、ビンゴになった方には、リーダーお手製の野鳥シールが配られ、日本野鳥の会へのお誘いをして、11時30分に終了となりました。

■参加者の声

小学1年生の女の子のお父さん：リーダーの一人が娘の担任の先生で、娘が鳥に興味を持っ

たようです。今回が2回目の参加です。探鳥会は、娘がいろんな人と接する良い機会だと感じています。

20代の女性：博物館で標本を作るイベントに参加したところ、学芸員をしているリーダーの方に今日の探鳥会を誘っていただきました。大学時代の友人と初めて参加しました。

■まとめ

リーダーは、初参加の方の名前をすぐに覚えて声をかけ、観察中も気さくに会話をするなど、全体的にアットホームな温かい雰囲気がありました。

近くの公民館で開催された交流会には、リーダー9名に加えて、初参加の方5名が参加されました。昼食後、リーダーが用意したお菓子と

お茶をいただきながら、「鳥にまつわる日頃の疑問」などの話題で和やかに楽しみました。

交流会終了後には、リーダー全員が集まって1時間弱の反省会がありました。ベテランリーダーも交え、支部全体としてヤング探鳥会を盛り上げていこうとする姿勢が感じられました。

次回のヤング探鳥会は、11月に、福井県嶺北で開催する予定だそうです！

◀担当の2人

(普及室／堀本理華)



◆探鳥会保険集計結果（2019年3月分）

3月は68支部からご報告をいただき、計276回の探鳥会が開催され、のべ6,748人が参加されました。

表2. 3月の探鳥会保険集計結果（2019年4月15日現在）

支部	開催回数 (回)	参加者数		スタッフ数 (人)	合計人数 (人)
		会員(人)	非会員(人)		
オホーツク支部	1	31	16	1	48
根室支部	-	-	-	-	-
釧路支部	1	10	0	1	11
十勝支部	-	-	-	-	-
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	1	13	0	1	14
道北支部	2	3	4	4	11
江別支部	-	-	-	-	-
札幌支部	4	138	56	10	204
小樽支部	1	0	4	1	5
苫小牧支部	0	0	0	0	0
室蘭支部	1	13	16	3	32
函館支部	-	-	-	-	-
道南桧山	-	-	-	-	-
青森県支部	-	-	-	-	-
弘前支部	2	19	1	2	22
秋田県支部	3	49	0	3	52
山形県支部	3	19	7	4	30
宮古支部	-	-	-	-	-
もりおか	1	17	8	6	31
北上支部	0	0	0	0	0
宮城県支部	2	41	17	4	62
ふくしま	2	48	0	4	52
郡山支部	2	39	0	4	43
白河支部	0	0	0	0	0
会津支部	1	5	1	1	7
奥会津連合	-	-	-	-	-
いわき支部	1	17	6	1	24
福島県相双支部	-	-	-	-	-
南相馬	-	-	-	-	-
茨城県	12	116	67	19	202
栃木県支部	16	326	51	55	432
群馬	9	116	67	37	220
吾妻	1	21	4	2	27
埼玉	16	395	102	90	587
千葉県	10	120	37	44	201
東京	14	496	77	70	643
奥多摩支部	9	151	24	35	210
神奈川支部	15	229	51	78	358
新潟県	1	11	0	2	13
佐渡支部	-	-	-	-	-

富山	2	50	28	4	82
石川	3	35	46	11	92
福井県	0	0	0	0	0
長野支部	3	43	11	6	60
軽井沢支部	1	10	3	1	14
諏訪支部	1	9	15	2	26
木曾支部	-	-	-	-	-
伊那谷支部	-	-	-	-	-
甲府支部	2	58	4	5	67
富士山麓支部	1	3	11	8	22
東富士	0	0	0	0	0
沼津支部	1	10	30	2	42
南富士支部	1	16	8	2	26
南伊豆	1	6	0	2	8
静岡支部	3	35	6	7	48
遠江	3	56	17	9	82
愛知県支部	14	192	127	41	360
岐阜	-	-	-	-	-
三重	4	34	21	7	62
奈良支部	5	131	14	10	155
和歌山県支部	0	0	0	0	0
滋賀	4	27	44	8	79
京都支部	9	98	30	34	162
大阪支部	21	396	98	110	604
ひょうご	8	78	83	23	184
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	25	10	3	38
島根県支部	2	18	23	2	43
岡山県支部	3	49	24	7	80
広島県支部	5	54	29	5	88
山口県支部	2	25	0	2	27
香川県支部	2	42	9	3	54
徳島県支部	5	73	9	5	87
高知支部	-	-	-	-	-
愛媛	2	5	23	4	32
北九州支部	3	40	2	3	45
福岡支部	8	100	29	19	148
筑豊支部	5	52	2	5	59
筑後支部	3	20	13	6	39
佐賀県支部	2	47	8	3	58
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	4	41	25	8	74
大分県支部	2	23	6	4	33
宮崎県支部	3	37	11	3	51
鹿児島	2	39	23	7	69
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	2	3	2	2	7
全国	276	4,423	1,460	865	6,748

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

(普及室)

◆普及室からのお知らせ

■2019年度改訂版「ツバメのねぐらマップ」を発行しました■

2015年度に発行した「ツバメのねぐらマップ」を更新して、2019年度改訂版「ツバメのねぐらマップ」を発行しました。今回は、紹介するねぐらを18か所から32か所に増やして掲載するとともに、ツバメの解説を充実させました。ねぐらの情報を更新・追加するにあたり、ご協力いただきました支部のみなさまに、この場にてお礼申し上げます。

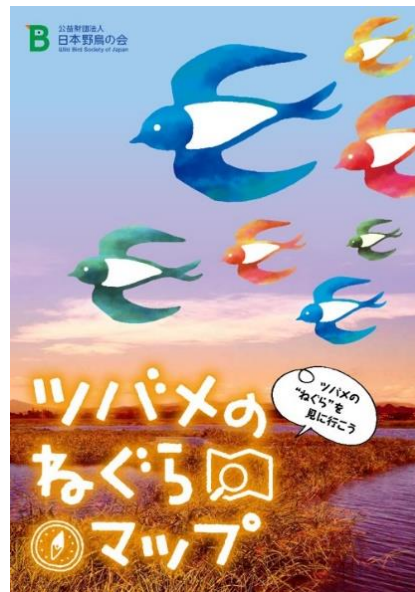
改訂版「ツバメのねぐらマップ」は希望者の方々に配布し、ツバメとそのねぐらについて普及してまいります。

ツバメのねぐら入り観察会などに、本パンフレットをご活用いただけますと幸いです。ご入用の際は、以下の連絡先にお問い合わせください。

(※「ツバメのねぐら入り観察会」開催支部におかれましては、実施概要とともにいただいた「ツバメのねぐらマップ」のお申し込みは、承っております。7月上旬発送予定です。)

【連絡先】

普及室 普及教育グループ
メール：tancho-staff@wbsj.org
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635



▲2019年度改訂版「ツバメのねぐらマップ」表紙

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信5月号の電子メール版の購読者数は、先月と同じ845名です。各支部の購読者数は、「財団からの配信者数」と「支部からの転送による配信者数」の合計です。

表3. 探鳥会スタッフ通信5月号電子メール版の購読者数（2019年5月13日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
オホーツク支部	6	長野支部	1
根室支部	0	軽井沢支部	1
釧路支部	2	諏訪	7
十勝支部	1	木曾支部	1
旭川支部	3	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	4
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	5	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	3
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	5	静岡支部	2
函館支部	0	遠江	10
道南松山	1	愛知県支部	44
青森県支部	1	岐阜	6
弘前支部	5	三重	19
秋田県支部	4	奈良支部	3
山形県支部	4	和歌山県支部	5
宮古支部	1	滋賀	20
もりおか	4	京都支部	31
北上支部	2	大阪支部	26
宮城県支部	39	ひょうご	14
ふくしま	6	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	10
郡山支部	1	島根県支部	13
白河支部	2	岡山県支部	28
会津支部	2	広島県支部	9
奥会津連合	0	山口県支部	16
いわき支部	1	香川県支部	6
福島県相双支部	0	徳島県支部	6
南相馬	0	高知支部	1
茨城県	22	愛媛	15
栃木県支部	59	北九州	11
群馬	24	福岡支部	12
吾妻	1	筑豊支部	21
埼玉	39	筑後支部	5
千葉県	24	佐賀県支部	5
東京	68	長崎県支部	1
奥多摩支部	48	熊本県支部	13
神奈川支部	25	大分県支部	4
新潟県	2	宮崎県支部	4
佐渡支部	1	鹿児島	3
富山	2	やんばる支部	0
石川	29	石垣島支部	1
福井県	11	西表支部	1
		合計	845

(普及室)

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのア

ドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.orgへお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.orgまでお知らせください。

★編集後記

バードウィークの真っ最中ですね。たくさんの鳥たちが見られる季節、みなさまの探鳥会はいかがでしたでしょうか？

今月号では、探鳥会報告のほか、改訂版「ツバメのねぐらマップ」の発行についてお知らせしました。ご協力いただいたみなさまにおかれましては、誠にありがとうございました。

紙面では、ねぐらごとの詳しい情報のほか、ツバメの1年間の生活史や子育て、ねぐら入りの習性についての解説など、ツバメの生態についても掲載しております。マップを読んだ方が、ツバメのねぐら入りを見てみたい！と思ってもらえますように…というのはもちろんですが、ツバメを見たときに、そのねぐらとなるヨシ原を守ることの大切さについて、想いを馳せてもらえたらよいなと考えております。

（普及室／井上奈津美）

日本野鳥の会

探鳥会スタッフ通信 第74号

◆発行

（公財）日本野鳥の会 2019年5月15日

◆担当

普及室 普及教育グループ

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL：03-5436-2622

FAX：03-5436-2635

E-mail：tancho-staff@wbsj.org
